ひ　か　り　結　ぶ　ま　ち

かりや景観れぽーと

テーマ
歴史の面影を残すまち

VOL.25

発行日：平成29年３月１日
発　行：刈谷市まちづくり推進課
ＴＥＬ：(0566)62-1022

今回の景観れぽーとは、平成 28 年 10 月に実施した「かりや景観づくり講座」についてご紹介します。

今年度は、「歴史の面影を残すまち」をテーマとし、当日は名古屋市立大学名誉教授の瀬口先生を講師としてお招きし、景観まちづくりに関する講義を実施しました。また、静岡市の「駿府城公園（駿府城跡）」、「宇津ノ谷集落」で景観まちあるきを実施しました。

駿府城公園

宇津ノ谷集落

かりや景観づくり講座

市民の皆さんに景観形成に対する意識をより高めてもらい、みなさんの手による景観まちづくりや、良好な景観の形成につながる機会としていただくことを目的に、平成 15 年から毎年実施しています。

講師のご紹介

瀬口　哲夫 先生（名古屋市立大学名誉教授・工学博士）

専門　歴史的遺産を活用したまちづくり、近代建築史

経歴　豊橋技術科学大学建設工学系助教授、名古屋市立大学芸術工学部教授・芸術工学部長を経て、平成 23 年４月より名古屋市立大学名誉教授。
現在、刈谷市都市計画審議会会長、名古屋市歴史的風致維持向上計画協議会会長、名古屋城全体整備計画検討会議座長、岡崎城跡整備基本計画検討委員会委員長など。

景観形成基準の一部をご紹介

景観形成基準とは…

景観法（良好な景観形成を図るための根拠として、地方公共団体の取り組み等を後押しする法律）に基づく基準で、地域の独自性が発揮できるよう、基準の内容等は必要に応じて定めることができます。

宇津ノ谷集落ではこんな基準が定められています。

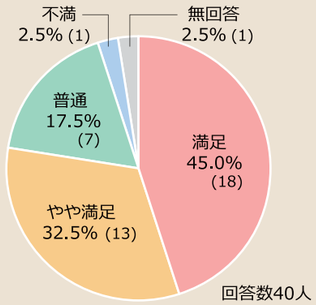
高さ・階数	建築物の最高高さは 10m以下とする。建築物の階数は２階以下とする。
構造、構法	主要構造は木造とする。やむを得ずその他の構造とする場合は、外観を和風とする。
屋根・庇の形状、素材	屋根の材料は日本瓦葺きを基本とし、庇、小屋根は、日本瓦葺き又は金属板葺きとする。
外壁の構造等	外壁の構造は大壁又は真壁とする。
建築設備等	建築設備や空調機及び電気・ガスメーターは、道路から見えない位置に設置する。
郵便受・牛乳入等	建物の外壁と調和した色彩や木製のルーバー（目隠し）等で修景する。
緑化	旧東海道沿いは、家の前や外壁に四季の花を植える（飾る）ように努める。

宇津ノ谷集落景観形成基準イメージ

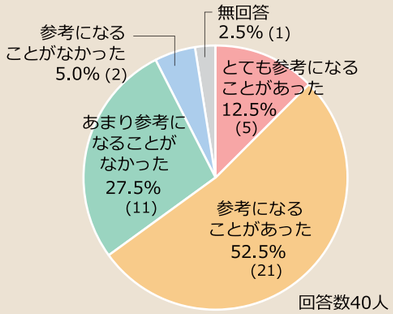
かりや景観づくり講座への参加者の声

かりや景観づくり講座終了後、参加者の方にアンケートのご協力をいただきました。ここではその結果の一部をご紹介します。

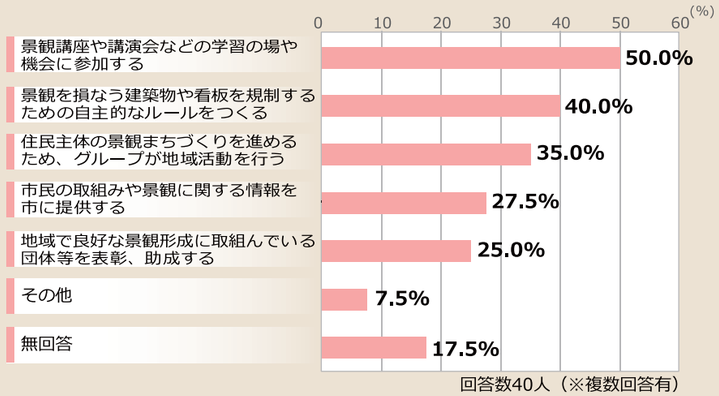
Q1 講座の内容はいかがでしたか？



Q2 今後の景観づくりの参考になることはありましたか？



Q3 市民が主体的になって景観まちづくりを進めていくにはどのようなことに取り組むことが効果的だと思いますか？



Q4 参考になったことやご意見をお聞かせください。

- 宇津ノ谷集落では、昔の風情を残して新しく改築しており、まちなみがとても素敵だと感じた。
- 駿府城の周囲が近代的過ぎるため、違和感があった。
- 豊かな自然を残し、美しいまちづくりをしたい。
- 宇津ノ谷集落には宇津ノ谷集落の良さがあったが、刈谷市は刈谷市の景観をつくった方が良いと思った。

駿府城公園

駿府城は徳川家康公ゆかりの城です。家康公は、将軍職を 2 代秀忠に譲った後、駿府を拠点とし、全国の大名に命じて駿府城の修築や駿府の町割りの整備を行いました。城下町は、西から東への動線を意識した設計となっており、旧東海道を通り駿府のまちへ向かう人達の目には、天守と富士山の美しさを前方に見ることができたといいます。

しかし明治時代以降、廃城による取壊しや、陸軍の部隊誘致に伴う内堀（天守台周辺の堀）の埋め立て、天守台の取壊しが行われ、官庁等の公用地となった後、公園として整備されました。

歴史ある景観を守る取組み

まちあるきでは、ボランティアガイドに案内していただきながら、駿府城公園を見学しました。

公園として市民の憩いの場であると同時に、歴史的な遺構が守られ公開されており、現代へのつながりが感じられる場所となっています。

埋め立てられてしまった堀は、現在発掘調査中で、天守台の石垣が見え始めています。藩の印が刻印された石垣や陶磁器等、重要な歴史的遺産が発見されています。

駿府城の主要な入口であった東御門、防御や戦闘の拠点として二ノ丸の東南角に設けられていた巽櫓（たつみやぐら）、南西角に設けられていた坤櫓（ひつじさるやぐら）が復元されています。

宇津ノ谷集落

宇津ノ谷集落は、東海道の難所であった宇津ノ谷峠の近くの間の宿（あいしゅく）（宿場と宿場の間にある休憩のための宿）で、伊勢物語にも描かれている歴史がある場所です。

歴史ある景観を守る取組み

まちあるきでは、ボランティアガイドに案内していただきながら、宇津ノ谷集落を見学しました。

集落では、伝統的な町家が残る景観を資源と捉え、景観形成基準※が定められており、建物の新築や改修時には昔ながらの工法や材料を用いるなどしながら、統一感ある歴史的景観を継承しています。

※景観形成基準については、最後のページをご覧ください。

昔よばれていた屋号が各戸に掲げられているまちの雰囲気は、かつての東海道を彷彿とさせます。

道路は石畳風に整備されており、周囲の建物と調和しています。

景観講座

「城のあるまちづくり」について

【ユニークな刈谷城下町の形態】

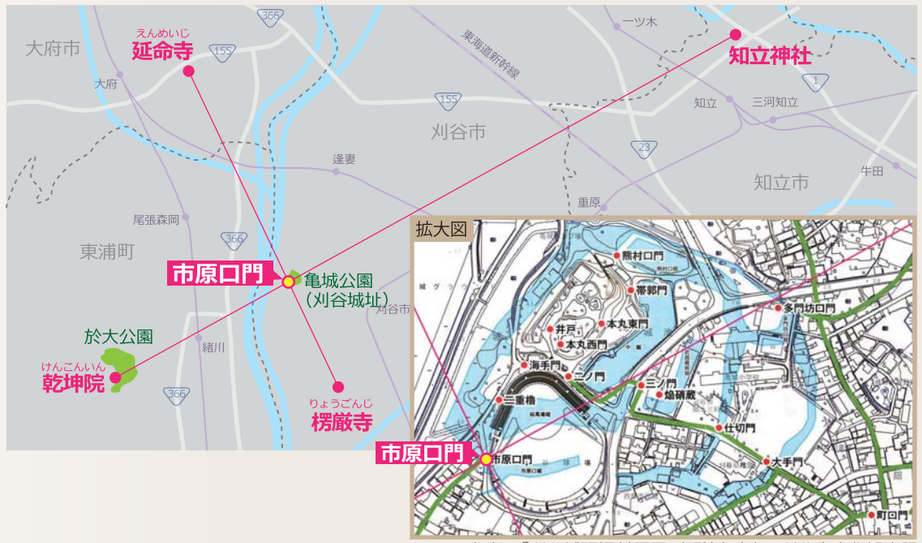
愛知県内に残る岡崎、西尾、犬山などの城下町は、城下町の周囲が堀や土塁で囲まれた構造（総構え（そうがま））になっています。名古屋城下町も総構えで計画されましたが、豊臣が滅んだため途中で中断されました。刈谷の城下町の場合は、城下町の周囲が田畑で囲まれています。水を入れれば湿地のように足場が悪くなり、敵が攻めにくくなる田畑が、総構えの堀の役割を果たしていたと推測されます。同じような構造の城下町として、田原城下町があります。初期の城下町の形態と考えられます。

【刈谷城の縄張り】

刈谷城の配置をどのようにしたのか興味があるところです。このことについて、愛知淑徳大学の小島早稀さんが卒論で取り組んでくれました。刈谷城を築いたのは緒川から本拠を移した水野忠政です。天文 2 年（1533）のこととされます。そこで、刈谷城周囲にある水野家ゆかりの古刹を選びました。鬼門の方向にある**知立神社**（水野家から崇拝された）と裏鬼門の方向にある**乾坤院**（けんこんいん）（東浦町、水野家の菩提寺）、さらに、西北方向にある**延命寺**（えんめいじ）（大府市、三世住職は水野家出身）と東南方向の**楞厳寺**（りょうごんじ）（刈谷市、水野家の菩提寺）を選び、それぞれを結びます。するとその交点が刈谷城の主要城門にあたる市原口門になります。刈谷城と本刈谷神社を結ぶ線は、本丸東門の上を通ります。市原神社と松秀寺（しょうしゅうじ）の線上に町口門が乗ります。こうして見ると、刈谷城の周囲にある、水野家ゆかりの古刹と刈谷城下町の主要な門（市原口門、本丸東門、町口門）の位置に密接な関係があるようです。当時の縄張りは、縁起を担ぎ、呪術的な縄張りをしていたのではないかと推測されます。

【城のあるまちづくりへ向けて】

自然の地形を生かして造られた刈谷城下町は、ユニークなものですが、認識しづらく、市民は、城下町に住んでいることを実感し難いと思います。城跡だけでなく、城下町の「見える化」が大切です。「見える化」にあたっては、歴史的な背景や意味を考慮することで、刈谷市の特徴を活かしたまちになるのではないでしょうか。それが、市民の誇りにつながることを期待します。



参考：「刈谷城現況対照図（明治初年）」刈谷市文化観光課
作成：小島早稀「刈谷城現況対照図」に書き込み